

事業計画書

事業名	総合的な学習の時間での中込中学校との連携による、中込商店街活性化のための発信事業
実施箇所	佐久市中込地区
実施期間	事業開始予定年月日 平成31年 6月 1日
	事業終了予定年月日 平成31年12月10日
	<p><事業の目的及び達成目標></p> <p>佐久平駅周辺や佐久インターチェンジ周辺の一大商業集積化に加え、ネットを通しての消費行動への止まることのない移行が既存商店街の体力を一年一年奪い続け、市内各地において廃業に追い込まれる商店の出現で商店街は機能喪失寸前の状況に追いやられている。</p> <p>大正4年の旧国鉄小海線開通を契機に中込駅を中心として都市化が進み、中込地区のみならず、平賀、内山地区住民の最寄りのお買い物の場として栄えてきた中込商店街も、他地区の商店街同様に経営不振や後継者難で商店街としての存立の危機に瀕している。</p> <p>そんな状況下において当商店会協同組合は、近隣の商店が皆無状態の平賀、内山地区の高齢者や移動手段を持たない住民向けに、2年続けて無料のお買い物支援ジャンボタクシーを運行し、衣食住に関わる商店が少なからず残っている中込商店街のお買い物やお食事を楽しんでもらおうと画策してみたが、残念なことに利用者は想定以下の数字に終始してしまった。</p> <p>思惑が外れた要因は、一日一便の運行ダイヤによる使い勝手の悪さを筆頭にいろいろと考えられるが、商店街の個々のお店がまだまだ魅力不足であり、努力不足による発信力の脆弱さが露呈されたということに突き詰められるのではないかと思われる。</p> <p>そこで、肝心の商店そのものの魅力を掘り起こしながら、「存在感」を発信していく作業が遅まきながらも必要不可欠であると再認識する。</p> <p>については、商店街の活性化を発信事業に注力することによって実現させていくこととする。</p>

<事業の内容>

1. 商店街店舗紹介冊子の制作

中込商店街の各店舗を紹介するための冊子を、持ち運びにも便利なA5サイズのフルカラー100ページの仕様で、編集、製作する。

この冊子は、新聞折込チラシのような一過性のものとは明確に一線を引き、電話帳のように長期間各家庭に保存していただける情報発信冊子とする。

そのために、地図やJR・公共バス時刻表、さらには各地域避難場所等の生活に密着した情報の同時掲載も検討し、付加価値を加えることとする。

なお制作期間に関しては、6月から開始し遅くとも年末商戦の本格的なスタートとなる12月の初めまでには完成させる。

事業概要

2. 中込中学校生徒との連携

冊子制作にあたっては、地元中込中学校における総合的な学習の時間(1年生は50時間、2年生・3年生は70時間)を利用して、生徒の皆さんには中込商店街各店を始めとした取材対象に向き合っていただき、さらにはその後の記事作成、編集を通じて本事業への参画をいただく。

3. 冊子の作成、配布

冊子は8,000冊を作成する。そして、商店街各店での手配り用に800冊、商店街内休憩スペース用に200冊、地元中込、平賀、内山地区の各戸ポスティング用に6,660冊、さらには参加生徒用に70冊の合計7,730冊を配布し、残りは予備用として商店会事務所に保管する。

なお、作成に深くかかわっていただく生徒による配布実施の可能性も検討する。

<アピールポイント>

・中込中学校の佐藤教頭とは電話にて、総合的な学習担当の宮沢教諭とは中学校における面談で、本事業に関する細かい打ち合わせを実施済みである。
なお海野校長とは中込中学校同窓会の席にて、今回の申し出に対する謝意をいただいている。

・今後の予定としては、中込中学校の来年度の総合的な学習が3月中旬に確定するのを待って、中込商店会並びに中込中学校で綿密な下打ち合わせを開始し、6月以降の事業開始に備える。

・本日(3月3日)現在、学年の枠を超えた2クラスでの参画を学校側は検討中、との回答をいただいている。

年間計画	4月	
	5月	
	6月	商店街各店の基礎的な情報を収集 冊子の掲載内容、レイアウト等の詳細を決定
	7月	取材、原稿づくり
	8月	取材、原稿づくり
	9月	取材、原稿づくり
	10月	紙面製作開始
	11月	校了、印刷、製本
	12月	各店に配布、各戸にポスティング 中学生、各店、お客様にアンケート。反省材料収集。
	1月	
	2月	
	3月	

<p>活動するこ とで期待さ れる地域や 社会への具 体的な効果 ・成果 (事業の対 象者・参加 予定人数も 記載)</p>	<p><「公益性」の視点> 従来の中込中学校の総合的な学習は、一年生が「地域を知る」ということで自由なテーマでの学習を、二年生は「地域で働く」で職場体験を、そして三年生は「地域に貢献する」で福祉施設での体験を実施してきたそうだが、今回の中込商店街とのコラボレーションは、これまでの学年ごとの枠組みを取り払ったクラス単位での取り組みも面白く、意義深いのではないかと、前例に囚われない柔軟な対応を検討中とのことである。 当然、いきなりの冊子制作のための取材では中学生だけでは難しいだろうが、講師だったりサポート役だったりを務めるつもりで店主や従業員の力を借りながら、いろいろな疑問を抱く中、調査、探求の上で事を為すという一連の過程を経れば、総合的な学習の完遂に繋がるはずである。 ちなみに文化祭での地域交流講座では、デジタル写真講座が毎年開講されており、受講生の一眼レフカメラによる写真を掲載するというのも実現性の高い構想である。 さらには写真班の高校生のお兄さんたちに助っ人として指導してもらおうという可能性も探してみたい。</p>
<p>活動を継続 するための 取組や考え 方 (資金面、 人材等)</p>	<p><「自立性」の視点> ・取材をしていただくお店側としては、これまで以上にお店の魅力を高めることに注力し、商店街としては本冊子制作を目的でなくあくまでも手段として捉え、保護者を始めた地域住民の方にお店を訪れていただけるよう、街を挙げて不断の努力を重ねていくこととする。</p>
<p>翌年度以降 の活動内容 概要</p>	<p>同等の事業を継続するのではなく、中学生の職業体験やまちゼミへの参加などを通して、いろいろな方法で商店街が学びの場、発表の場として活用されるよう工夫して継続していく。</p>
<p>事業の 最終目標</p>	<p>・中込商店街来街者の増加 目標:H31年度は、対H30比10%増 ・地元三地区の地域住民に、商店街各店の存在並びに魅力を再認識していただき、恒常的な購買行動を呼び起こす。</p>